

後援会だより

第 59 号

2026 年 9 月 4 日 発行
愛知教育大学後援会

主 な 内 容

会長就任のご挨拶

後援会長 新美 勲 …… 2

多様な得意分野をもった学生の輩出に向けて

学 長 野田敦敬 …… 2

未来の教育を支える人材を育てるために

教育・学生担当理事

(附属図書館長) 山口 匡 …… 3

継続がもたらした成長

義務教育専攻

保健体育専修 4 年 浅井伶勇 …… 4

挑戦と成長の 1 年間

義務教育専攻

生活・総合専修 3 年 岡本美優 …… 4

2026 年度後援会総会 …… 5

2026 年度役員名簿 …… 5

2025 年度一般会計決算書 …… 6

2026 年度一般会計予算書 …… 7

2025 年度特別会計決算書 …… 8

2026 年度特別会計予算書 …… 8

キャリア支援センターだより

副学長 (キャリア支援・課外活動担当)・

附属学校部長

キャリア支援センター長 石川 恭 …… 9

令和 7 年度愛知教育大学卒業・修了者の

進路状況 …… 10

令和 7 年度学校教員養成課程 (旧課程含む) 卒業者

課程, 選修・専攻別進路状況 …… 11

令和 7 年度教育支援専門職養成課程卒業生

コース別進路状況 (就職先一覧) …… 12

本学のクラブ・サークル団体について …… 13

教材を通して子どもたちに SDGs の大切さ

を広めたい! ~学生団体 SAGA~

…………… 13

第 57 回愛教祭, スポーツの祭典 …… 14

第 57 回子どもまつり …… 14

AUE パートナシップ団体 (PS 団体)

の認定 (平成 29 年度スタート) …… 15

愛知教育大学後援会寄附金 (助成金) に

よる環境整備について …… 15



養護・幼児棟外観

会長就任のご挨拶

後援会長 新 美 勲



愛知教育大学後援会の皆さまには、日頃より本会の活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度、令和8年度の後援会長を務めさせていただくことになりました新美勲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

5月9日に本年度の後援会総会が開催され、多くの会員の皆さまにご参会をいただきました。当日は大学祭が開催されており、ステージイベントで、または出店で、多くの学生たちの生き生きとした姿を見ることができました。この後援会が、大学祭に打ち込む学生のお役に立てたかどうかと思うと少々うれしく思いました。

学生たちの表情を見ていると、若さやエネルギーを感じて頬が緩みます。高校受験、大学受験を経て手にした学生生活。この4年間は、社会人になる直前の大切な期間です。のんびり、ゆったり流れる時間を味わうことで、わくわく感やエネルギーを充電できると思います。「この頃の学生は忙しそうだな」と感じることも多いのですが、卒業生の多くが学校現場に就職していくことを考えると、自分が打ち込みたいことを決め、仲間と協力して様々なことを経験して欲しいと思っています。

後援会といたしましても、学生生活支援、クラブ・サークル支援等、様々な支援活動を継続していきたいと思っています。微力ながら本会の発展のために尽力いたす所存でございます。引き続き、会員の皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

多様な得意分野をもった学生の輩出に向けて

学 長 野 田 敦 敬



いよいよ今秋には、愛知・名古屋で、第20回アジア競技大会と第5回アジアパラ競技大会が開催されます。オリンピック、パラリンピックに次ぐ大規模なスポーツの競技大会です。日本では東京、広島に次いで32年ぶり3回目の開催となります。これからの社会は多様な人々との連携が不可欠となります。本学の学生も大会運営に関わる様々なボランティアやアンバサダー、開閉会式への出演や聖火リレー応援イベントに協力など活躍しています。

私は、昨夏に実施された次期学長選考においての学内意向聴取、「学長選考・監察会議」の審議及び面接等の手続を経て、昨年10月に令和8年度から令和11年度末までの4年間の任期で最終学長候補者となることが決定しました。4月1日付で文部科学大臣から再任の辞令を受けました。就任から6年間、学内はもとより愛知県教育委員会及び市町村教育委員会、連携企業や大学、そして後援会の皆様のご支援をいただき務めることができました。

学長7年目となりますと、全国に11ある国立の教育系大学、あるいは東海・北陸地区の12ある国立大学の学長・総長の中で、一番の古株となりました。新たな決意のもと役割を果たしていきたいと思っています。

今年度からの2年は、第4期中期目標・中期計画期間の5・6年目となり、第4期の最後の2年間となります。第5期につなぐ大変重要な期間となります。学長就任時に目指す大学の姿を「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」としてキャッチフレーズに掲げました。その実現を目指して策定した「未来共創プラン」は、5年間の取組で9つの戦略が年々充実・発展してきています。地域及び関連団体等からも好意的な評価をいただいています。

さて、今年度の学部入学生から、新科目「未来

共創科目」を立ち上げます。「未来共創科目」とは、現代の学校教員や教育支援専門職は、発達障害、言語や文化の多様性、性の多様性など様々なダイバーシティを包摂し、すべての子どもたちのウェルビーイングを保障していかなければなりません。同時に、デジタルツールを活用し、領域横断的視点から高度な学びをデザインする力量も求められます。そして、「チーム学校」に携わる専門職の有り様としては、こうした高度な知識や技能を自律的に模索しながら常に更新していくことが不可欠です。そこで、これらの現代的課題に対応する学校教員や教育支援専門職を育成する観点から、「ダイバーシティとインクルージョン」「学びのイノベーションと学力・学習保障」「専門職としての新たな働き方と学び」を柱として、20科目程度の多様な科目を開設します。自律的に専門性を高める姿勢を育成するとともに得意分野をもった多様な教員及び専門職を輩出することを目指します。

未来の教育を支える人材を育てるために



教育・学生担当理事（附属図書館長）

山口 匡

少子化の進行は、わが国の高等教育に大きな変化をもたらしています。学生数の減少が予測されるなか、大学にはこれまで以上に社会的な存在意義が問われています。教育大学も例外ではありません。私たちは、単に学生を受け入れ、資格を与えるだけでなく、教育現場や地域社会から真に必要とされる大学であり続けなければなりません。

そのためには、本学ならではの強みや専門性をさらに磨き上げていくことが重要です。教員養成を中核としながらも、教育行政、心理支援、福祉支援など、教育を支える多様な専門職の育成に力を注ぎ、子どもたちの成長を総合的に支える人材を育てていきたいと考えています。

しかし、大学の強みや専門性は大学のなかだけで生み出されるものではありません。学校現場が

どのような課題を抱えているのか、地域社会がどのような支援を求めているのか、そして子どもたちを取り巻く環境がどのように変化しているのかを真摯に受け止め、その課題に応える教育や研究を積み重ねることによって初めて培われるものです。

大学にはますます、地域や教育現場との双方向の関係が求められています。大学が知識や人材を提供するだけではなく、学校や地域社会から学び、そこで生じている課題をともに考え、解決していく。そのような共同作業のなかでこそ、大学の教育と研究はより豊かなものになり、学生たちもまた実践的な学びを深めることができます。

私たちは学生たちに高い期待を寄せています。教育に関わる専門職を目指す以上、自ら学び、自ら考え、社会に貢献する力を身につけてほしいと願っています。同時に、若者たちは成長の途上にあります。失敗や迷いを経験しながら、自分の進路や生き方を模索していきます。だからこそ、私たちは厳しさとともに寛容さを忘れてはならないと考えています。高い期待を持ちながら、その成長の可能性を信じ、挑戦を支えることが教育の原点だからです。

こうした人材育成は大学だけでできることではありません。学生を最も身近で支えてくださるご家庭や後援会の皆様の存在は欠かせません。さらに、大学をよりよいものにしていくためには、皆様からの率直なご意見やご提案も必要です。私たちには見えていない課題や改善の可能性を教えてください。大学が成長につながります。

大学、学生、保護者、そして地域社会が、それぞれが異なる立場から知恵を持ち寄り、未来の教育を支える人材を育てる。この共同作業こそが、これからの時代に求められる大学づくりではないでしょうか。後援会の皆様にも、その大切なパートナーとして、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

継続がもたらした成長

義務教育専攻 保健体育専修4年 浅井 伶 勇

私たち陸上競技部は、競技ごとに専門種目へ取り組みながら、日々切磋琢磨して練習に励んでいます。一方で、東海インカレなどの大会では種目の垣根を越え、部員全員で選手を応援し合うことでチームとして戦っています。対校戦でより良い結果を残すことを目標に競技力の向上に努めています。

私自身は中学から陸上競技を始め、今年で競技歴10年目を迎えました。陸上競技では、どれだけ練習を積み重ねても、調子が良いと感じていても試合で思うような結果が出ないことが少なくありません。そのような経験を何度も重ねる中で、諦めずに継続することの大切さを学びました。結果が出ない時には自分の動きや練習内容を見直し、試行錯誤を繰り返してきました。こうした積み重ねは競技力の向上だけではなく、粘り強さや向上心といった人間的な成長にも繋がっていると感じています。

また、昨年度は主将を務めました。部の運営や活動を通して、大学関係者の皆様をはじめ、多くの方々の支えがあって競技に打ち込めていることを改めて実感しました。その感謝の気持ちを忘れず、今後も部員一同努力を重ね、結果で恩返しができるよう活動していきます。これからも陸上競技部への温かいご支援・ご声援をよろしく願いいたします。



挑戦と成長の1年間

義務教育専攻 生活・総合専修3年 岡本 美 優

私たち子どもまつり実行委員会は、毎年春と冬に行われる「子どもまつり」の開催に向けて日々準備を進めています。

私は、第57回子どもまつり実行委員会の委員長を務めさせていただきました。新体制が始まったころは、右も左もわからず何をしていけばいいのか、どうしたらみんなが楽しく子どもまつり開催のための準備を進めることができるか、考えることが多く大変な日々でした。心労だけでなく、委員長として必要な書類作成、直属の後輩への引き継ぎなどの仕事も溜まり、肉体的にもつらい日々が続き、委員会活動から逃げたくなることもありました。ですが、悩みを聞いてくれたり、よりよい活動にしていくために気持ちを入れ替えて取り組んでくれたりする仲間たちが支えてくれました。そんな仲間たちと私は協同しながら様々な困難に立ち向かう力強さを身につけることができました。それらを乗り越えて委員長の業務の大部分をやり終えた今、私自身の成長だけでなく、子どもまつり実行委員会全体の成長を実感しています。意識高く子どもまつりのことを考えてくれる仲間が増え、今後の体制への期待が高まります。

今回の冬の子どものまつりで、第50回を迎えます。節目となる開催がよりよいものになるよう今後の活動も精いっぱい取り組んでまいります。これからも子どもまつり実行委員会をよろしく願いいたします。



2026年度 後援会 総会

2025年度決算書及び2026年度予算書 —承認—

2026年度後援会総会がさる5月9日（土）午後1時から愛知教育大学第2共通棟431講義室において会員122名（委任状提出者2,662名）の出席を得て開催されました。2025年度決算書および2026年度予算書について同日午前に開催されました役員会の原案通り承認されました。また、2026年度の会長選出にあたり、副会長の新美勲氏を推挙し全員一致で承認されました。

併せて新副会長始め新役員の方について下記名簿の通り承認されましたので御報告申し上げます。

なお、総会に引き続き大学側より2025年度の就職状況および日頃の学生生活について説明がなされました。

当日は学生主催の大学祭が開催されており会議終了後各自見物していただきました。

役 員 名 簿

会 長	新 美 勲
副 会 長	小 笠 原 仁・麻 生 和 男
	廣 中 晃 夫
監 事	山 上 勝 久・深 谷 俊 幸
理 事	鈴 木 研 吾・小 島 雅 生
	久 野 善 之・小 島 勉
	川 本 祐 二・平 野 崇
	伊 藤 和 正・鈴 木 祥 之
	稲 垣 祐 嗣・浅 野 太 介
	畠 山 明 久・福 田 秀 夫
	竹 内 孝 光・副 隆 宏
	山 本 誉 也・荒 谷 佳 樹
	石 川 真 司・佐 藤 一 雄
	大 西 英 樹・高 木 克 久
	河 下 卓 司・吉 本 仁 信
	森 順 仁・内 山 涉
	植 村 宏 明・佐 藤 実
	横 山 大 樹・太 田 有一郎
	早 川 慎・中 條 多啓雄
	野 中 由紀子・北垣戸 正 樹
	後 藤 嘉 隆・尾 坂 宏 樹

※下線は新役員

顧問	学 長	野 田 敦 敬
	理 事	岩 山 勉
	(研究・人事)	
	理 事	寺 田 安 孝
	(連携・附属学校)	
	理 事	太 田 知 啓
	(総務・財務)	
常任理事	理 事	山 口 匡
	(教育・学生)	
	副 学 長	國 府 華 子
	(学 生 支 援)	
	教育科学系長	江 島 徹 郎
	人文社会科学系長	近 藤 裕 幸
	自然科学系長	大 鹿 聖 公
	創造科学系長	上 原 三十三
	学 務 部 長	繁 野 哲
	学生支援課長	大 竹 勝 規
理 事	副 学 長	小 塚 良 孝
	(カリキュラム改革・国際交流・未来共創)	
	副 学 長	梅 田 恭 子
	(入試・ICT活用指導力育成)	
	学 長 補 佐	石 川 恭
	(キャリア支援・課外活動)	
	教務企画課長	井 成 浩 文
	キャリア支援課長	前 田 直 樹
	入 試 課 長	渡 辺 朋 和
書 記	学生支援課副課長	鈴 木 緑 恵
	学生支援課学生・課外教育係長	寺 田 美 穂
事務局	後援会専従職員	吉 田 洋 和

2025年度 一般会計決算書

収入の部

項 目	予算額（円）	収入額（円）	差引額（円）	摘 要
前 年 度 繰 越	8,851,201	8,851,201	0	
会 費	38,500,000	38,560,000	60,000	学部1年904名・大学院1年120名
雑 収 入	799	9,280	8,481	利息
合 計	47,352,000	47,420,481	68,481	

支出の部

項 目	予算額（円）	支出額（円）	差引額（円）	摘 要
学生生活指導費				
課 外 活 動 補 助 費	3,350,000	2,179,141	1,170,859	クラブサークル等補助
連合行事等旅費補助費	3,400,000	1,655,170	1,744,830	体育大会・全国大会参加学生・付添教員旅費補助
大 学 祭 補 助 費	950,000	950,000	0	パンフ印刷代、本部企画費等
子どもまつり補助費	600,000	599,993	7	パンフ印刷代、本部企画費等
懇 談 会 補 助 費	900,000	213,600	686,400	新入生・在学生と教員との懇談
就 職 指 導 補 助 費	4,750,000	3,522,865	1,227,135	就職ガイダンス・セミナー等補助
卒 業 祝 賀 補 助 費	800,000	787,248	12,752	卒業学生の記念品
図 書 整 備 費	100,000	98,252	1,748	電子書籍
新 入 生 用 冊 子 費	300,000	390,000	△90,000	新入生へのメッセージ（ガイドブック）
小 計	15,150,000	10,396,269	4,753,731	
教育研究費				
修 学 指 導 補 助 費	550,000	369,274	180,726	実習先挨拶等に係る経費
実 地 指 導 補 助 費	600,000	573,330	26,670	学生の実地指導に係る経費
研 究 会 補 助 費	200,000	50,000	150,000	専攻・コース等主催講演会
美 術 館 賛 助 会 費	500,000	402,700	97,300	名古屋市美術館・徳川美術館・愛知県陶磁美術館
体 験 活 動 等 補 助 費	5,000,000	2,741,547	2,258,453	実践力育成科目等
小 計	6,850,000	4,136,851	2,713,149	
運 営 費				
会 議 費	150,000	111,326	38,674	総会・役員会・会計監査
事 務 費	7,000,000	6,487,437	512,563	専従職員手当、印刷費、通信費、消耗品等
慶 弔 費	300,000	180,900	119,100	会員等の弔慰、会長・監事記念品代
小 計	7,450,000	6,779,663	670,337	
諸 経 費				
国際交流関係補助費	800,000	773,457	26,543	外国来学者・留学生との交流等経費
渉 外 費	900,000	805,208	94,792	地域連携活動経費・オープンキャンパス経費
小 計	1,700,000	1,578,665	121,335	
予 備 費				
予 備 費	1,202,000	0	1,202,000	
小 計	1,202,000	0	1,202,000	
特別会計へ繰入	15,000,000	15,000,000	0	
合 計	47,352,000	37,891,448	9,460,552	

次年度繰越額（差引残高） 9,529,033円

以上のとおり御報告申し上げます。

2026年4月25日

愛知教育大学後援会長 市 川 和 義

前記の諸項について監査したところすべて適正なことを認めます。

2026年4月25日

監 事 今 井 貴 久
山 上 勝 久

2026年度 一般会計予算書

収入の部

項 目	予算額（円）	前年度予算額（円）	比較増減額（円）	摘 要
前 年 度 繰 越	9,529,033	8,851,201	677,832	
会 費	38,280,000	38,500,000	△220,000	学部1年909名・大学院1年96名
雑 収 入	8,967	799	8,168	利息
合 計	47,818,000	47,352,000	466,000	

支出の部

項 目	予算額（円）	前年度予算額（円）	比較増減額（円）	摘 要
学生生活指導費				
課 外 活 動 補 助 費	3,350,000	3,350,000	0	クラブサークル等補助
連合行事等旅費補助費	3,400,000	3,400,000	0	体育大会・全国大会参加学生・付添教員旅費補助
大 学 祭 補 助 費	950,000	950,000	0	パンフ印刷代、本部企画費等
子どもまつり補助費	600,000	600,000	0	パンフ印刷代、本部企画費等
懇 談 会 補 助 費	900,000	900,000	0	新入生・在学生と教員との懇談
就 職 指 導 補 助 費	4,700,000	4,750,000	△50,000	就職ガイダンス・セミナー等補助
卒 業 祝 賀 補 助 費	800,000	800,000	0	卒業学生の記念品
図 書 整 備 費	100,000	100,000	0	電子書籍
新 入 生 用 冊 子 費	400,000	300,000	100,000	新入生へのメッセージ（ガイドブック）
小 計	15,200,000	15,150,000	50,000	
教育研究費				
修 学 指 導 補 助 費	550,000	550,000	0	実習先挨拶等に係る経費
実 地 指 導 補 助 費	600,000	600,000	0	学生の実地指導に係る経費
研 究 会 補 助 費	200,000	200,000	0	専攻・コース等主催講演会
美 術 館 賛 助 会 費	500,000	500,000	0	名古屋市美術館・徳川美術館・愛知県陶磁美術館
体 験 活 動 等 補 助 費	5,000,000	5,000,000	0	実践力育成科目等
小 計	6,850,000	6,850,000	0	
運 営 費				
会 議 費	150,000	150,000	0	総会・役員会・会計監査
事 務 費	7,000,000	7,000,000	0	専従職員手当、印刷費、通信費、消耗品等
慶 弔 費	300,000	300,000	0	会員等の弔慰、会長・監事記念品代
小 計	7,450,000	7,450,000	0	
諸 経 費				
国際交流関係補助費	1,500,000	800,000	700,000	外国来学者・留学生との交流等経費
渉 外 費	850,000	900,000	△50,000	地域連携活動経費・オープンキャンパス経費
小 計	2,350,000	1,700,000	650,000	
予 備 費				
予 備 費	968,000	1,202,000	△234,000	
小 計	968,000	1,202,000	△234,000	
特別会計へ繰入	15,000,000	15,000,000	0	
合 計	47,818,000	47,352,000	466,000	

2025年度 特別会計決算書

収入の部

項 目	予算額 (円)	収入額 (円)	差引額 (円)	備 考
前 年 度 繰 越	6,001,177	6,001,177	0	
一般会計より繰入	15,000,000	15,000,000	0	
雑 収 入	823	2,705	1,882	利 息
合 計	21,002,000	21,003,882	1,882	

支出の部

項 目	予算額 (円)	支出額 (円)	差引額 (円)	摘 要
学生事故等緊急対応費	6,002,000	0	6,002,000	事故・自然災害対応経費
課外活動施設等積立金	15,000,000	15,000,000	0	
合 計	21,002,000	15,000,000	6,002,000	

次年度繰越額（差引残高） 6,003,882円

以上のとおり御報告申し上げます。

愛知教育大学後援会長 市 川 和 義

2026年 4 月25日

前記の諸項について監査したところすべて適正なことを認めます。

監 事 今 井 貴 久

2026年 4 月25日

山 上 勝 久

2026年度 特別会計予算書

収入の部

項 目	予算額 (円)	備 考
前 年 度 繰 越	6,003,882	
一般会計より繰入れ	15,000,000	
雑 収 入	2,118	利 息
合 計	21,006,000	

支出の部

項 目	予算額 (円)	摘 要
学生事故等緊急対応費	6,006,000	事故・自然災害対応経費
課外活動施設等積立金	15,000,000	
合 計	21,006,000	

キャリア支援センターだより

副学長（キャリア支援・課外活動担当）・附属学校部長

キャリア支援センター長 石川 恭

1. ご挨拶

後援会の皆様におかれましては、日頃より本学の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで本学は、毎年多数の教員を輩出し、全国トップレベルの教員就職者数を安定的に維持しております。令和7年3月における教員養成課程卒業者の教員就職者数は、文部科学省発表「令和7年3月卒業者の大学別就職状況」に基づく正規採用・臨時的任用の人数において全国第1位となりました。令和8年3月の卒業生につきましても、実績数から鑑みて、引き続き全国第1位を維持できるものと推察しております。これもひとえに後援会の皆様からの様々なお力添えがあつてのことと感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2. 令和7年度卒業・修了者の進路状況

令和7年度の卒業・修了者の進路状況は、図表に示したとおりです。

学校教員養成課程（旧課程を含む）の教員就職者数は552人（前年度比8人減）であり、そのうち正規採用者は399人（前年度比1人増）となっております。また、本学教職大学院への進学者は昨年度より4人減少し、18人となりました。

教育支援専門職養成課程の卒業者は、官公庁をはじめ、医療・福祉、教育・学習支援関係の企業等への就職が多く、大学院進学者も21人となっております。官公庁に就職した53人のうち、愛知県内自治体の行政職を中心に47人が地方公務員として就職しております。

教育実践高度化専攻（教職大学院）の修了者のうち、現職教員の復帰も含め、教職に就いた者は全体の91.9%を占めています。また、教育支援高度

化専攻（修士課程）の修了者は、企業や官公庁への就職者が多く、その他の多くは心理系職種における臨時的任用となっております。詳細な進路状況については、図表をご参照ください。

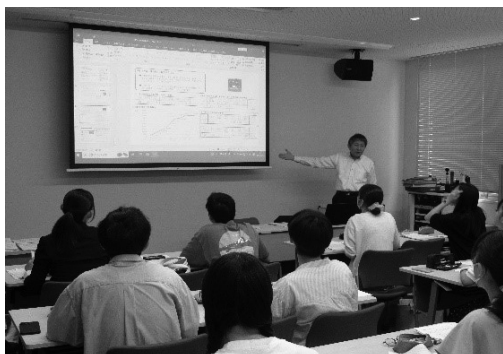
3. キャリア支援・就職支援対策

キャリア支援センターでは、年間を通じて、学生が希望する就職先に就けるよう、様々な就職支援を行っております。

教員就職対策では、公立学校の校長職等を歴任された方々が教員就職特任指導員として、年間を通じた講義、教員採用試験の学習方法、願書の書き方、小論文の添削指導、面接指導等、多岐にわたる手厚い支援を、県内外の採用試験を受験する学生へ行っております。さらに、教員就職ガイダンスでは、教員就職に向けて、現職教員や各自治体の教育委員会担当者、採用試験に合格した在学生等を講師に招いて、さまざまな内容を学年ごとに数多く開催しております。

公務員・企業就職対策では、年間を通して就職情報会社の担当者や官公庁・企業の人事担当者を講師に招き、就職活動の初歩から実践的なワークまで、さまざまなガイダンスやイベントを実施しております。また、国家資格を有するキャリアコンサルタントによる個別相談、自己分析、エントリーシートの添削、面接練習等、就職に関する悩みに対する専門的なサポートを行っております。

「なりたい自分になるために目指す未来を応援します」という理念のもと、学生一人ひとりに寄り添い、学生が自分の良さや特性に気づき、最も適した将来像に向かって主体的にキャリアを形成できるよう、スタッフ一同、全力でサポートしてまいります。



教員採用試験指導風景

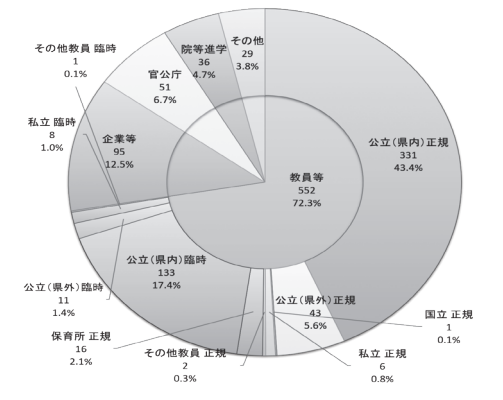


公務員・企業研究セミナーの様子

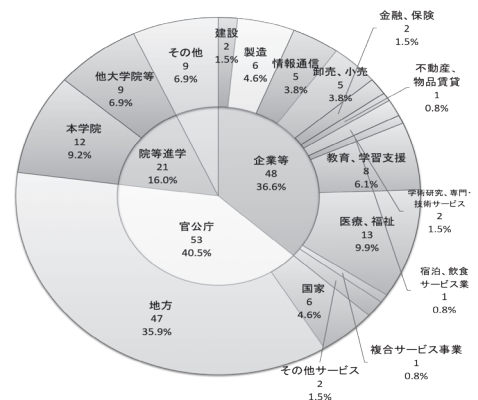
令和7年度愛知教育大学卒業・修了者の進路状況

令和8年5月1日現在

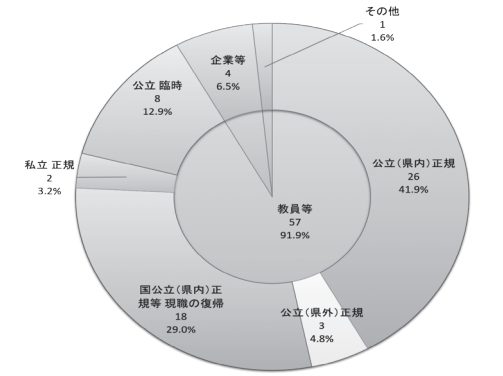
学校教員養成課程（旧課程を含む） 763人



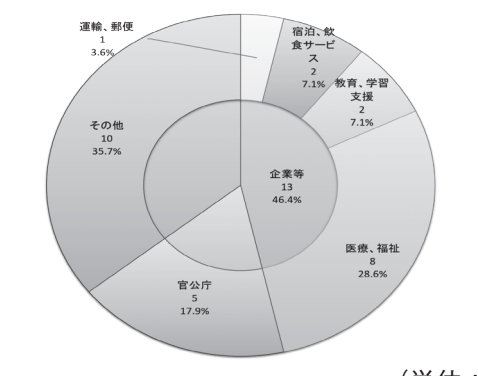
教育支援専門職養成課程 131人



教育実践高度化専攻（教職大学院） 62人



教育支援高度化専攻（修士課程） 28人



(単位：人)

課 程 等	卒 業 ・ 修 了 者 数	就 職																				その他						
		教員等			企 業 等																	官 公 庁		院 等 進 学	そ の 他	計		
		教 員	臨 時 教 員	小 計	建 設 業	製 造 業	電 気・ガ ス・熱 供給・水 道業	情 報 通 信 業	運 輸 業・郵 便業	卸 売業・小 売業	金 融業・保 険業	不 動 産業・物 品賃貸業	学 術研究・高 ・技術サ ービス業	宿 泊業・飲 食サ ービス業	生 活関連サ ービス業・ 娯楽業	教 育・学 習支援業	医 療・福 祉	複 合サ ービス事 業	そ の他サ ービス業	左 記 以 外	小 計							
学校教員養成課程（旧課程を含む）		763	399	153	552	2	9	0	21	1	7	7	2	6	3	0	14	8	0	15	0	95	51	698	36	29	65	
教育支援専門職養成課程		131	0	0	0	2	6	0	5	0	5	2	1	2	1	0	8	13	1	2	0	48	53	101	21	9	30	
学 部 計		894	399	153	552	4	15	0	26	1	12	9	3	8	4	0	22	21	1	17	0	143	104	799	57	38	95	
教育 学 研 究 科	教育実践高度化専攻（教職大学院）	62	49	8	57																		4	0	61	0	1	1
	教育支援高度化専攻（修士課程）	28	0	0	0																		13	5	18	0	10	10
	共同教科開発学専攻後期3年博士課程（本学分）	8	5	0	5																		1	1	7	0	1	1
大 学 院 計		98	54	8	62																		18	6	86	0	12	12
特別支援教育特別専攻科		19	17	1	18																		0	0	18	0	1	1

注1：本表は、令和7年9月卒業・修了者を含む。
注2：円グラフの構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。
注3：「教員等」は、保育士を含む。
注4：区分「その他」は、企業等（臨時）・官公庁（臨時）、大学学部・研究生・科目等履修・専修学校等の学校入学、海外留学、アルバイト、パート、未定等である。
注5：本表の博士課程の修了者には、満期退学者を含む。

令和7年度学校教員養成課程(旧課程含む)卒業生 課程, 選修・専攻別進路状況

(単位:人)

令和8年5月1日現在

課程・選修 (専修)・専攻		卒業 者数	就 職																			進 学								
			教 員 等																			小 計	官 公 庁	企 業 等	小 計	大 学 院	専 攻 科	そ の 他 進 学	そ の 他	
			県 内						県 外					私 立					日 本 人 学 校	そ の 他										
			小学 校	中学 校	高等 学校	特別 支援 学校	幼稚園	保育 所	小学 校	中学 校	高等 学校	特別 支援 学校	幼稚園	保育 所	小学 校	中学 校	高等 学校	幼稚園			その他									保育 所
教 員 養 成 課 程	教 育 科 学	1																							1	1				
	国 語・語 書 道	1	(1)																				(1)							
	数 学	2	(1)																				(1)							1
	理 科	3																							2	2				1
	保 健 体 育	1																							1	1				
	技 術	1																							1	1				
教員養成・小計		9	(2)																			(2)			5	5				2
学 校 教 員 養 成 課 程	幼 児 教 育	30	(1)				3	11					1	1			3		3	2		(1)	24	4	1	5				
	学 校 教 育 学	31	(2)	13	4				2										1			(2)	20	2	5	7	1			1
	生活・総合	13	(1)	4					3													(1)	7		3	3	1			1
	I C T活用 支 援	21	(3)	7	(2)	1			(1)	1												(6)	9	1	5	6				
	日本語支援	26	(2)	9	(1)	2			2													(3)	13	2	7	9				1
	国 語	58	(8)	15	13	(2)	1		1	(1)												(16)	30		6	6	1		1	4
	社 会	74	(11)	18	9	(1)	1		(1)	4	1				1		(3)					(16)	36	9	5	14	4	1		3
	算数・数学	70	(10)	16	(7)	(2)	5		(1)	1												(20)	39	1	7	8	1		1	1
	理 科	93	(7)	15	(6)	(3)			4	5					1	(1)	(1)					(18)	51	8	10	18	1	1	1	3
	音 楽	29	(6)	11	2				(2)	1	1											(8)	15		1	1	3	1		1
	図画工作・ 美 術	31	(2)	5	4				1	1												(2)	11	6	8	14	2	2		
	保 健 体 育	62	(4)	26	(2)	(2)	3		2	1							1					(8)	34	3	8	11	7	1		1
	ものづく り・技 術	11	(1)	(1)	8					1												(2)	9							
	家 庭	34	(1)	16	(1)	(1)	2		3													(3)	24	2	4	6	1			
	英 語	16	(2)	4	4	2																(2)	10	1	3	4				
	義 務・小 計		569	(60)	159	(25)	(11)	15	1	(4)	(2)	1			2	(1)	(4)	1		1		(107)	308	35	72	107	22	6	4	15
	高 等 学 校 教 育 専 攻	国語・書道	10			(2)	4															(2)	4		2	2	2			
地歴・公民		10			(1)						1										(1)	4	2	2	4	1				
数 学		15			(1)	(2)	10														(3)	10		1	1	1				
理 科		26			(3)	(1)	8								(1)	(1)					(6)	12	3	2	5	3				
英 語		14			(1)	(1)	3														(2)	7		3	3					2
高 校・小 計		75			(3)	(8)	(1)				1				(1)	(1)					(14)	37	5	10	15	7				2
特別支援教育	37	(4)	10			(3)	10				3								1	(7)	24		2	2	1				3	
養 護 教 育	43	(8)	3	(4)	(2)	(1)		(2)	(2)	(1)						(1)			(1)	(22)	6	7	5	12					3	
学校教員養成・小計		754	(73)	172	(32)	(21)	(5)	11	(6)	(4)	(1)	3	1	1	2	(2)	(6)	1	3	4	(1)	(151)	399	51	90	141	30	6	4	23
合 計		763	(75)	172	(32)	(21)	(5)	11	(6)	(4)	(1)	3	1	1	2	(2)	(6)	1	3	4	(1)	(153)	399	51	95	146	30	6	4	25

※注1：本表は、令和7年9月卒業生を含む。

※注2：「教員等」は、保育士を含む。

※注3：教員欄の（ ）内の数は、期限付き等により採用された者（病休、産休代替教員等）を外数で示す。

令和7年度教育支援専門職養成課程卒業生 コース別進路状況(就職先一覧)

(単位：人)

令和8年5月1日現在

コース	卒業 者数	官 公 庁	名称	企 業	名称	進学		そ の 他
						院 等	そ の 他	
心理 コース	53	10	名古屋家庭裁判所, 愛知労働局, 愛知県(2), 岡崎市(2), 刈谷市, 安城市, 豊橋市, 鈴鹿市	19	大阪印刷, 藤田製作所, フューチャーイン, ジェイテクト, 日立ソリューションズ, アイ・シー・シー, マーブル, シオンステージ, キラックス, 三菱電機住環境システムズ, スギ薬局, 細田塾Lepton, さなる, 日本入試センター, 名四自動車学校, リハプライム, SOMPOケア, 日本郵便, トータルグロース	18	1	5
福祉 コース	16	3	鳥取県, 安城市(2)	12	スリーピート法律事務所, 三重県厚生農業協同組合連合会, なごや福祉施設協会, 名古屋市社会福祉協議会, 刈谷市社会福祉協議会, 児童養護施設樹心寮, 相和福祉会, チャーム・ケア・コーポレーション, ヒューマンライフケア, 三重県厚生事業団, 岐阜県福祉事業団, 日本年金機構			1
教育ガバナンス コース	62	40	東海財務局, 名古屋国税局, 愛知労働局, 名古屋高等裁判所, 愛知県(3), 愛知県小学校事務(2), 三重県, 名古屋市(5), 名古屋市小中学校事務, 犬山市, 江南市, 東海市(2), 豊明市(2), 知多市(2), 豊田市(4), 刈谷市役所(2), 安城市(2), みよし市, 高浜市, 西尾市, 豊橋市(2), 湖西市, 松江市, 愛知中部水道企業団	17	太平産業, 朝日電気工業, ソトー, (有)中山木型製作所, エイチームホールディングス, 東海エレクトロニクス, 宮良硝子, 碧海信用金庫, プレミア, 大東建託, ベリーベスト法律事務所, (合)シテン, 名古屋工業大学(2), 日能研東海, ステップ, 名古屋商工会議所	3	1	1
計	131	53		48		21	2	7

※注1：9月卒業者含む。

※注2：「官公庁」「企業等」の名称は、就職先確認が取れたものを記している。

※注3：「官公庁」「企業等」で当該のコースから複数人が就職した機関にあっては、() 付き数字でその人数を記している。

本学のクラブ・サークル団体について

『愛知教育大学には51の体育系クラブ・サークル団体、37の文化系クラブ・サークル団体があります。クラブ・サークル活動は、学生の自主性を育み、学生生活を豊かにする大切な活動です。文化・スポーツ・学術等の多方面にわたる活動は、正課授業とともに重要な教育活動の一つとなっています。また、専攻・学年の違いを超えて、共通の目的のもとに集った仲間と活動する中で得られた経験は、何ものにもかえがたい貴重な体験となります。また、課外活動をやり遂げたという自信は、将来社会へ旅立つ上で、大きな力となります。毎年、各団体の活動を紹介した「クラブ・サークル紹介冊子」が発行されています。新入生や未加入の学生の皆様は、是非、クラブ・サークルへの加入をご検討ください。』



クラブ・サークル紹介冊子
(2026年度版)

教材を通して子どもたちにSDGsの大切さを広めたい！～学生団体SAGA～

磯貝青波（義務教育専攻理科専修4年）

2030年の達成を目標とするSDGs。いまや、SDGsに関する活動は、企業や自治体にとどまらず、学校教育の現場でも扱われ、小・中学校のさまざまな教科書に掲載されています。私たちSDGs啓発団体「学生団体SAGA（サーガ）」は、こうしたSDGsを子どもたちにわかりやすく、楽しく伝えるための教材の開発や実践に日々取り組んでいます。

普段は教材開発を進めたり、そのための話し合いを行ったりしており、子どもたちがより楽しく、よりわかりやすくSDGsを学べるように日々試行錯誤しています。神経衰弱やかるた、パズルなど、子どもたちに身近な遊びをモチーフとした教材を開発しています。

さらに、1か月に数回、イベント出展や出前授業などを行っており、私たちが開発した教材を通して、子どもたちだけでなく、大人の方にもSDGsの大切さを広めています。また、私たちも活動を通して、子どもたちとともにSDGsを学び、知識を蓄えながら、よりよい教材の開発・改善に活かしています。

SDGsを単なる「難しい知識」として学ぶのではなく、日常生活と結び付けながら学ぶことで、持続可能な社会に関する諸問題を自分事として捉え、行動につなげられる教員や子どもたちを増やしていきたいと考えています。今後とも、学生団体SAGAをどうぞよろしくお願いいたします。



開発した教材（バイオミミクリー）



イベント出展の様子

第57回愛教祭，スポーツの祭典

テーマ	「解像度，無限大。」 (人と人との本質的なつながりや体験の価値を再認識し，学生と地域が交わることで無限大の可能性と豊か交流を創出するという意味が込められています。)	
	第57回愛教祭	スポーツの祭典
期日	5月9日(土)，10日(日)	4月25日(土) 26日(日)
参加者	延約5,000名参加	延約350名参加
内容	室外出店(各種模擬店) 室内出店(科学実験，演劇等) ステージ企画(お笑いライブ，バンド演奏，ダンス等) 学内ラジオ放送 フリーマーケット等 学術発表	フットサル ソフトボール バドミントン バレーボール

愛教祭は，新たな企画として学術発表を実施し，学内外の参加者へ本学の多彩な研究成果や教育実践を発信する場となりました。またステージ企画では，外部の団体も多数参加し，大いに盛り上がりを見せました。スポーツの祭典は，2日間とも天候に恵まれ，本学学生による熱戦が繰り上げられました。これらの行事は学生にとって，貴重な成長の機会となりました。



愛教祭 学術発表の様子



愛教祭 ステージ企画の様子

第57回子どもまつり

期日	5月5日(火)	
参加者	205名(子ども)，142名(運営スタッフ，学生)	
企画内容	白黒探偵 にじいろのせかい バルーンアート作り -196℃の世界を体験しよう わくわく！春の読み聞かせ会	GO!GO!毛糸まつり 宇宙を楽しもう みんなであそぼう 百人一首を体験しよう！

子どもまつりは晴天のもと開催され，多くの子どもたちが参加しました。子どもと学生がグループとなって行動することを特色としており，各ブースを巡る中で自然と会話や交流が生まれていました。学生のサポートを受けながら工作や体験に取り組み，活動を通じて楽しみながら学ぶ様子が見られました。終盤の「かざりのお持ち帰り」では，会場を彩っていた飾りを子どもたちが大切に抱えながら持ち帰る様子が見られ，心に残る一日となったことがうかがえました。



-196℃の世界を体験しよう



かざりのお持ち帰りの様子

AUEパートナーシップ団体（PS団体）の認定（平成29年度スタート）

AUEパートナーシップ団体とは、本学学生が主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究及び社会貢献活動に寄与しているとして、大学が認定した団体のことです。

PS団体には認定証が授与され、活動拠点として学内のPS団体オフィスが利用できます。

適宜必要物資の支援もあります。また活動に関する大学との意見交換が行われ（不定期、随時）、諸要望への支援についても検討されます。

	団 体 名	認定年度
1	情報保障支援学生団体「てくてく」	2017年度
2	訪問科学実験わくわく	2017年度
3	子どもの読書応援団体よみっこ	2019年度
4	天文愛好会CORE	2020年度
5	学生団体SAGA	2022年度
6	レクリエーションクラブ	2024年度
7	人形劇サークルじゃんけんぽん	2024年度

愛知教育大学後援会寄附金（助成金）による環境整備について

令和8年度に後援会よりお寄せいただきました、寄附金による助成事業につきまして、学内で募集を行ったところ多数の応募をいただきました。

このうち、令和8年度には、以下の事業を実施する予定です。

【令和8年度実施予定事業】

	主 な 採 択 事 業
1	体育館附属棟更衣室シャワールーム設置
2	体育館附属棟製氷機設置
3	体育館附属棟ウォーターサーバー設置
4	クラブハウス施設設備更新事業
5	馬術部小屋新設工事
6	卓球台の更新事業

◆体育館附属棟整備関係

(シャワールーム設置工事，製氷機設置，ウォーターサーバー設置)

令和8年8月～令和9年3月にかけて，体育館附属棟の改修工事が予定されております。今回の改修工事では，屋根・防水・外壁・断熱化・照明設備・空調設備・便所等，建物の長寿命化を図るうえで必要不可欠な箇所を優先的に整備するため，予算上の制約から個別のシャワールームの設置が難しいところでありました。

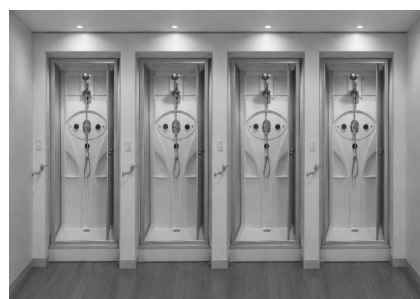
しかし，今回，後援会の皆様からの助成金により，現在の半開放型のシャワー室に代えて，プライバシーと衛生面に配慮した個別シャワールームを約10基整備できる見込みとなりました。

授業，課外活動において，学生が快適に利用できるよう，環境を整えてまいります。

また，体育館附属棟の1階には，学生のためのクーリングスポットを新たに創出します。クーリングスポットには，後援会の皆様からの助成金を活用し，熱中症対策として製氷機及びウォーターサーバーを同室に設置する予定です。これにより，授業や課外活動の合間に学生が適切に休憩や水分補給を行うことができ，安心して活動できる環境の充実に努めます。



現在のシャワー室



設置予定のシャワールーム（※イメージ図）

◆クラブハウス施錠設備更新事業

現在設置されている体育系及び文化系サークルのクラブハウスには，予備の鍵が不足している部屋や，施錠設備の老朽化が見られる部屋があります。

今後，鍵の一括交換を行い，あわせて管理方法を見直すことで，防犯リスクの低減を図る予定です。

◆馬術部小屋新設工事

現在，馬場横にある馬術部の道具や物品等を保管している小屋は，築60年を超える建物であり，各所に損傷が見られるほか，虫の侵入も多く，地震による倒壊の危険性が高い状況となっています。

こうした状況を踏まえ，活動する学生の安全性に配慮し，安心して活動に取り組める環境を整えるため，建て替えを予定しています。

◆卓球台の更新事業

現在使用している卓球台には，既に耐用年数を超えているものが多数あり，経年劣化の影響により，台の組み立てや脚部の可動が困難になっているものも見られます。

卓球台は課外活動に限らず授業でも使用され，多くの学生が利用していることから，老朽化した台の更新を行います。

これらの事業は，いずれも後援会の皆様からのご支援を受けて実施するものです。今後も，学生が安心・安全に活動に取り組めるよう，課外活動施設の環境整備を進めてまいります。引き続き，後援会の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

編集・発行

愛知教育大学後援会

〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1

電話 (0566) 26-2174 (学生支援課内)